

# 博物館だより



No.133

平成29年12月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## 祝 小笠原文庫「小倉藩朝鮮通信使対馬易地聘礼記録」が ユネスコ『世界の記憶』に登録決定！



▲上左から「対州御下向海陸日記」2冊 「対州御下向小倉方海上日記」  
下左から「対州御在館中日記」「対州御滞留日記」  
「従朝鮮国進献御品守護海陸日記」  
(資料は何れも福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会所蔵)

福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会から当館宛委託されている歴史資料「小笠原文庫」には、小倉藩第六代藩主・小笠原忠固(七七〇～八四三)が文化年間に派遣された第十二回朝鮮通信使の供応役を務めた関係上、朝鮮通信使に関する資料が収蔵されています。

去る10月31日、国連教育科学文化機関(ユネスコ)「世界の記憶」審査会あて出された「朝鮮通信使に関する記録」の登録申請が採択され、「小笠原文庫」の五件六点を含む百十三件三十三点の登録が正式決定しました。博物館では、このことを記念して現在、登録された資料「小倉藩朝鮮通信使対馬易地聘礼記録」六点すべてを展示しています。この機会にぜひご覧下さい。

- 場 所 当館展示室
- 観覧料 大人 200円  
高校生以下 100円
- 開館時間 9時半～17時  
(入館は16時半まで)
- 休館日 月曜・年末年始  
祝日の翌日
- 問合せ 博物館  
(0930-4666)

### イベントガイド&お知らせ

#### ◆12月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】  
12月2日(土) 9時30分～
- 【古文書講座】  
12月9日(土) 10時00分～
- 【古典かな講座】  
12月16日(土) 9時30分～
- 【みやこ学講座】  
12月23日(土) 10時00分～

※日程等変更となる場合があります。  
※見学会等は別途ご案内します。

#### ◆博物館で「楽習」始めませんか？

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる、知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか？詳しくは博物館へお問い合わせを！

##### ○博物館友の会

バスハイク・歴史ウォーク等の学びの旅に参加できます。

##### ○文化遺産ボランティア

養成講座(第2期)町の宝のガイド&サポートスタッフを募集養成する講座です。

#### ◆年末休館のお知らせ

博物館では館内整理と燻蒸作業のため、左記の期間、休館いたします。この間の博物館及び文化財業務に関することは、左記へお問合せ下さい。なお、新年は1月4日(木)から開館いたします。

##### ● 休館の期間

12月25日(月)～1月3日(水)

(※29日以降は通常の年末始休館)

##### ● 休館中の問合せ先

☎3331-3115(豊津公民館)

### 10月の業務日誌から

10月9日(祝)犀川小学校校庭遺跡で発掘調査結果の現地説明会を行いました。当日は、博物館講座受講生や地元の方々、卒業生も多くみられ、母校の校庭から姿を現した2千年前の遺構に興味深く写真やメモをとっていました。

10月18日(水)別府大学の山本名譽教授とフランスのモンペリエ第3大学の教授が遺跡調査に訪れました。調査後「みやこ町の遺跡は、フランスの古代遺跡と分布が良く似ている。非常に興味深い町。」とコメントをいただきました。



▲説明の最中にも新たな発見がありました



▲みやこ町内にみられる遺跡の規模・内容に驚きの様子でした



▲入賞された皆さん、おめでとうございます！



▲グランプリ「みやこまちのかぐら」  
豊津小1年 田中 夢さん

今年のもつりも  
発見と学び三昧！  
古墳をはじめとした、ふるさとの豊かな文化資源をいかしたまちづくりの一環となる学びの祭典「みやこ町古墳まつり（10/22〔日〕開催）」。  
今年「豊前神楽」をテーマに講演会と記念芸能上演が行われました。また絵画・作文コンクールの表彰式も行われ、絵画については会場投票によってグランプリも決まりました。まつりにご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



▲本松和奏さんによる最優秀作文の朗読

「文化のみやこづくり」プロジェクト  
**第5回 みやこ町古墳まつり**  
イベントレポート  
— 記念絵画・作文コンクール最優秀作品のご紹介＆まつりの様子 —

歴史たんけん作文 最優秀賞

## 平和について

伊良原小学校 六年 本松 和奏

今、私たちは平和な毎日を過ごすことができています。でも、夏休みになって、お昼のテレビを見ることができるようになったとき、毎日のように北朝鮮とアメリカをめぐる世界の動き、その真ん中で日本がどうなるかという報道を目にする。日本にはいつ北朝鮮のミサイルが飛んできてもおかしくない状態にあると言われていて。そんな時、私は今年の四月に修学旅行で行った長崎でのことを思い返す。

原爆資料館で、原爆投下直後の長崎の街や焼けただれた人の写真を見た。それらに目を閉じてしまいたいになった自分を思い出す。その時、どんなに熱くて痛かっただろう。その熱さと痛さとおそろしさを必死にたえ、最後まで生きようとしただろう。小さな我が子をなくした両親の気持ち、大好きな両親をなくした子どもの気持ちを考えると胸が痛くなった。

また、資料館には、原爆の熱で溶けたお弁当箱の展示もあった。その溶けたお弁当箱は、高校生が食べるお弁当だったそうだ。お母さんが作ってくれたごはん、好物のおかずが入っていたのではないだろうか。それを食べることにさえできなかったのだと思うと悲しくなる。たった一つの原爆で七万四千人もの人々が一しゅんで命をなくし、全てが失われている。原爆で今も苦しんでいる人もいる。オランダから伝わったキリスト教の美しい街が死の街に

なった。長崎に修学旅行へ行つて、私は平和のありがたさを知ることができ「今、平和な毎日を過ごすことができている」と思った。

平和公園には、大きな平和祈念像が堂々と建てられている。神の愛を象徴するものだ。垂直に高くあげた右手は原爆のきょういを、水平に伸ばした左手は平和を、横にした足は原爆投下直後の長崎市の静けさを、立てた足は救った命を表し、軽く閉じた目は戦争を祈る者のめい福を祈っているようだ。

祈念像の前では、多くの人たちが祈りをささげていた。私もしっかりと心の中で、みなさんの分まで平和を大切にしていきますとちかった。

なぜ、こんなことが起きてしまったのかと考えるととてもつらくなる。

私の祖母が、

「本当は長崎ではなく、私の住んでいるすぐ近くの小倉に落とされる予定だったんだよ。でも、その日の天気が悪く、小倉に落とすのが難しくなったため、長崎に変更されたんだよ。」と話してくれた。もし、小倉が晴れていたら、祖母がいなければ母もいない。母がいなければ、私もいない。私はこの世に生まれてこられたことをよかつたと思うと同時に、それだけ平和を考える責任を感じる。

私は、平和であるということを、これからも考え、平和を誓っていききたいと思う。

世界では、北朝鮮のミサイルについての話し合いが行われている。どこの国からも戦争がなくなり、人々が命を大切に、平和であることを誓い続ける。

## まつりの会場で見られた「(再) 発見と学び」「ふるさと遺産 (伝統文化)」のようす



▲グランプリ投票者にも抽選で記念品を贈呈



▲吉留徹氏による「豊前神楽」の紹介講演



▲上伊良原神楽保存会による「豊前神楽」上演